

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070501467
法人名	医療法人 社団桜会
事業所名	グループホーム さくら
所在地	福岡県北九州小倉南区朽網西1丁目6-6
自己評価作成日	平成25年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成25年11月21日	評価結果確定日	平成26年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営母体であるさくら整形外科医院との緊急連絡体制をとっている。又、定期的な往診もあり、入居者の方々の体調管理に努めている。併設の介護老人保健施設さくら苑は協力施設であり、緊急時連携の他、ボランティア受け入れや行事も合同で行うなど、地域交流を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

曾根新田や周防灘を望む幹線道路沿いに位置し、広い敷地内には、介護老人福祉施設やケアハウス等が集積し、地域の高齢者拠点としての運営が行われている。近隣には、母体となる医療機関や消防署、スーパー等があり、安心できる環境や暮らしの利便性の高い場所にある。毎月、ボランティアの方により実施されている活け花教室や書道教室、また、音楽療法の実施等、複合施設としての企画も多く、暮らしの中で心身の賦活に結び付けている。また、運営推進会議を通じて、災害時には避難場所として活用できるよう働きかけを行っている。法人内の連携は、職員育成や事例の共有、災害対策の連携等にて活かされ、サービスの向上や活性化に向けた働きかけが伝わってくる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに基本理念を掲げて、毎朝、職員で唱和を行い、その理念に基づいて実践に繋げている。	法人としての「私達の基本理念」のもとに、職員の意見を出し合い作成された各ユニットごとの理念を掲げている。日々の申し送り後に唱和を行い、1日の始まりとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	行事や防災訓練を通して、地域との協力や交流を図り、理解や支援の向上を目指している。	社会福祉協議会のウェルクラブ活動として、民生委員や老人会の支援のもと、子供ボランティアの訪問を受けている。また、近隣幼稚園や中学生の職場体験の受け入れ、メイクボランティア等を通じた交流機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でご家族や地域の方々に日々の出来事を報告し話し合いながらケアに対して理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、月々の報告を行い、それらに対しての意見交換を行ってサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、複数の家族、民生委員、地域包括支援センター職員等の出席を得て、2ヶ月に1回、定期的に行われている。その都度、出席が可能な家族を募り、議事録を閲覧可能としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修や勉強会の開催等の情報を頂き、それらの参加を行い意見交換や情報の共有を行っている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ている。また、研修案内や資料等の情報提供を受けたり、不明な点等について問い合わせを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束の廃止についての研修を行い、職員一人一人の理解を深めている。	法人として身体拘束廃止委員会を設置し、毎月委員が集まり、共有認識を図っている。気付かない内に言葉をさえぎったり、気持ちを押しさえつけたり、抑圧感を招いていないか等、申し送り時に理念の唱和の中からも確認して行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に職員が参加し虐待について学び、職員内で活かすことが出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々、勤勉を行い、それらを学ぶ機会を持ち、現実的にそれを必要としている利用者にも活用している。	成年後見制度に関する外部研修を受講し、ユニット内で伝達研修を行い、職員間の情報の共有を図って行っている。入居契約時の説明等、情報提供も行なわれ、これまでには活用に向けた支援を行った経緯もある。現在、新しい資料の整備を予定している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に本人、家族へ十分に説明を行い理解、納得してもらえる図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、日々面会での意見や要望も記録し、職員全員が周知改善へ向けて話し合いを行っている。	各フロアーに個人連絡用のポケットを設け、家族来訪時や電話の際に、申し送り事項を説明できるようにしている。家族の来訪も多く、意見や要望の言い易い様配慮し、要望、苦情処理ノートを作成し、職員全体での問題点の把握と解決対処としている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼や毎月各ユニット会議を行い、意見や提案を聞く機会を設け反映している。	管理者は、毎朝の申し送り時やユニット会議にて、意見や提案の収集に努めている。事案によっては、リーダー会議や管理者会議での検討を行い、運営への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の努力や研修参加や勤務の状況を考え、向上心がもてるよう給与、職場環境を作っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢により採用対象から排除などしていない。職員については、さらなる能力の向上を図れるよう研修や勉強会をサポートしている。	法人としての採用となり、年齢や性別、経験等を理由に採用対象から排除する事は無い。法人として養成研修を実施しており、採用後の取得も可能である。法人全体の研修や外部研修受講、自己評価の実施等、個々のスキルアップをサポートしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々、入居者への対応や尊重する姿勢を啓発し、施設内、外の研修に参加するようにし職員教育に取り組んでいる。	外部研修への参加や内部での伝達、理念の共有等を通じて、職員への人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に複数回様々な勉強会を行ったり施設外での研修については貼り出し案内し、参加を促している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護実践者研修などで、他事業所の職員と交流の機会を持ち、意見交換などを行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分に時間をかけながら傾聴し、コミュニケーションをとり、不安感を取り除き、安心して生活出来るよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や相談に来られた時、ご家族の気持ちを理解し、相談しやすい雰囲気を作るように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族への聞き取り、情報提供書等を元に本人、家族、他職種と連携し必要に応じたサービスの利用が出来るよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中で手作業や家事、会話などで昔の体験、知識を教えて頂いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の様子や気になった事など尋ねたり、サービス計画内容に家族の役割を持たせ、協力をお願いしている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気兼ねなく来ていただけるようグループホーム内の雰囲気作りやお盆や年末年始の外泊外泊支援に努めている。	家族との連携によるお墓参りや、盆、正月の外泊をサポートしている。複合施設として、緩やかな住み替えも可能であり、同法人ケアハウスから入居されている方とは、随時面会を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良い関係が築けていない入居者を離すのではなく、どうしたら良い関係を構築出来るかを検討し孤立せず、支え合えるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談に努めている。また、SSの受け入れ相談なども行ったり、以前入居されていた方の家族がボランティアとして行事などの協力をしてきている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時やサービス計画見直しの際、本人や家族の希望や要望を話し合い、サービス内容の検討を行っている。	詳細なアセスメントシートを用い、様々な視点から情報収集を行っている。また、ケアノートの作成やカンファレンスを通じて情報共有を図り、思いや意向の把握につなげている。今後は、内容の充実や更なる実践への反映が期待されます。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や家族の面会の際、又、本人より聞き取りを行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニットごとの会議やケアノート等により現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成前に本人や家族、担当者と十分な話し合いを行いその上で計画作成している。	入居者、家族の出席を得て、担当者会議を開催している。ニーズは本人の言葉で記載され、ケアプラン実施表の記入による日々の確認や、定期的に計画作成担当者によるモニタリング総括表で、現状に即した介護計画作成となるよう確認を行なっている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化を個別記録に記入し、又連絡ノートやケアノートへも記入し職員間での情報共有、実践や計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で話し合いや報告を行い、その後本人、家族、職員で検討を行い、様々な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方にボランティアなどで協力してもらったりし、暮らしに楽しみを持てるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、かかりつけ医受診を希望される方には引き続き受診していただき、その際、グループでの様子を介護情報として持って行っていただき、また電話で状況確認を行ったりして関係を築いている。	かかりつけ医は、入居時に、本人、家族の希望を尊重し決めている。また、複数の協力医療機関による往診体制を整備し、複合施設1階には歯科診療室も設けられている。かかりつけ医への受診については、基本的に家族による対応となり、相互の情報共有に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	その時々の変化に応じてすぐに連絡し報告を行っている。又、週3回の往診もあり適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との関係を図り、状態を交換、いつでも受け入れが出来る体制を作っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族、職員、医師、看護師と何度も話し合いを行い、グループホームで出来る事、今後の方針を伝え、また地域で何が出来るか考え、チームで支える支援を行っている。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、指針をもとに説明を行い、同意を得ている。状況の変化に伴い、その都度の話し合いや意向確認を行い、方針を共有している。家族や医師、看護師との連携により、看取りも経験しており、法人内では、ターミナルケアに関する研修も実施されている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応の研修を行い、また、対応方法を目のつく場所に貼り出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防火訓練を行い地域への協力を運営推進会議でも呼びかけている。また、今回、地震、水害時の対応のマニュアルも見直しを行い、職員全員に周知徹底を行っている。	複合施設合同にて、年2回、昼夜を想定した防災訓練を実施し、入居者も参加している。訓練前には町内会長や地域住民に訓練の開催を通知し、運営推進会議の中でも、災害対策について話を行っている。今年度は、津波等を含めた災害対策のマニュアルの見直しを行い、災害時には複合施設(8階建て)を地域住民の避難場所として活用していくこと等を発信している。消防署が近接している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについての研修、勉強会を行ったり、言葉かけなど日頃より話し合い、注意し合える環境作りをしている。	日常の中で、入居者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものになっていないか、理念に基づき振り返る機会を持っている。個人情報保護方針の内部研修を行い、外部との情報連携の際には、守秘義務について充分理解し、書類は鍵付ロッカーに保管する等、職員間で管理を徹底して行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から職員が決めるのではなく、本人に選択してもらえるような声掛けを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを把握し何事にも本人へ無理じいすることのないようにし、本人の希望に合わせて支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、着たい服を選んでいただいたり、行事にてメイクアップ教室やエステ、ネイルなどを行ったりしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを把握し、特別食べたい物がある時は家族に差し入れの協力をお願いしている。又、昼食時には職員と一緒に盛り付けを行っている。	法人厨房より食事は提供され、炊飯を各ユニットで行っている。盛り付け等は、入居者の方々と共に行っている。時には、バイキング料理を楽しむ機会がある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、厨房より栄養バランスを考えた食事を提供し、食事量、水分量を記録。毎月、体重測定も行っている。又、状態に応じて看護に相談。食事形態の変更も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人一人の状態に合わせて口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日、排泄チェック表を記録し、一人一人の排泄パターンの把握に努めている。又、会議等の話し合いで排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの習慣やパターンを把握し、各自のタイミングでトイレ誘導を行っている。夜間は個別の状況を検討し、本人の意思を確認しながら、ポータブルの使用等を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や食事、水分摂取で調節を行っているが、数日、排便がない方には便秘薬の内服を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者のペース、希望を尊重し、時間帯や曜日を決めず支援を行っている。	毎日入浴準備を行い、希望や体調、状況等に応じて、週に2~3回は入浴できるよう、時間帯も含め、柔軟な対応に努めている。好みのシャンプーや髭剃り等、個別に支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体力に合わせて午前、午後のベット臥床で休息を取ってもらったり、散歩や運動を行ったりしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医と連携を取り、一人一人に合った薬を処方してもらい、処方箋を頂いて内容の理解をしている。また、症状、変化を確認し異常がないか経過観察に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	切り仕事や洗濯たみ、縫い物など出来る事をお願いしたり、個々に合った役割を持っていたりしている。又、生花や塗り絵など以前から趣味としていた事に取り組んでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節事に外出計画を立てたり、家族に協力をお願いし、喫茶店や食事に連れ出していただいている。また、車椅子で近所の公園に散歩に行ったり、買い物に行ったりの支援も行っている。	複合施設内で催される、習字や生け花、音楽療法等に参加したり、8階からの展望を眺める事も含め、小さな外出として気分転換を図る機会を設けている。家族と共に外出したり、年に数回、外出行事を実施している。	広大な敷地を有し、芝生の敷かれた広場もあることから、個別の移動に配慮しながら、日常的な外気浴等、個別の外出機会の拡大についても、今後の取り組みが期待されます。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方もおり、本人の管理状況に応じて持てるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、階下へ電話をかけに行ったり、手紙を書いたりしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や室温は常に職員が調節を行い、季節に合わせて、花を飾ったり、ホールや居室の飾りを変えたりして雰囲気作りをして居心地良い空間作りを行っている。建物から見下ろす芝生で埋めつくされた中庭は、眺めも良く、散歩コースとしても活用されている。	共用空間には、活け花や書道教室の作品や、季節に応じた飾り付けが施されている。床暖房の設置や掘り炬燵のある畳スペース、ソファ等、快適に過ごせるよう配慮された空間作りとなっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの居室に行き来したり、堀こたつなどでくつろいだり自由に過ごせるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具を持ってきていただいたりして、居心地良く過ごしていただけるよう支援している。	洗面台付の居室入り口には、職員手作りの表札が飾られ、生け花や習字等の作品も飾られている。3、4階部分に位置していることから、眺望も良く、開放的な居室となっている。洗面台が設置され、自宅より、筆筒や鏡台、ソファ、テーブルセットが持ち込まれ、個人としての居室作りに配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何が出来るか、職員全員で検討し、一人一人の力を十分発揮できるように努めている。		